

# 2026 年度事業計画(案)

2026.3. 31 現在

## 【基本的考え方】

- ① (公財) 日本サッカー協会「JFA 中期計画 2023—2026」および当協会の「基本構想」と「中期計画 (2025—2028)」をもとに、会長指針である『**熊本県を全国で有数のサッカー王国に育てる**』。
- ② フットボールセンター (COSMOS) を最大限に活用した取組みを促進し、充実させる。  
以下の通り、2026 年度の経営計画を策定する。

## 重点目標体系 (5 分野)

### 【第 1 分野】COSMOS・拠点活用と地域共創

#### 方向性・重点方針

COSMOS の高稼働を維持しつつ、COSMOS を中心に、地域・学校・企業・行政・福祉が協働する。

「共創拠点」としての機能を高め、教育・防災・福祉・スポーツ振興を一体的に展開する。

#### 具体的取組み内容

- 防災拠点としての COSMOS の整備、維持管理として駐車場のアスファルト化。
- 稼働率 65% の維持。各種別委員会事業を優先し、バランスよく活用してもらう。他施設との共有も図る。

### 【第 2 分野】普及・育成・強化

#### 方向性・重点方針

サッカーを通じて「続けられる仕組み」と「夢を持てる環境」を整備する。

キッズからシニアまで、育成・指導・競技力を循環的に発展させる。

#### 具体的取組み内容

- FA コーチや技術委員会トレセンスタッフと連携し、選手発掘に力を入れ、熊本からよりよいプレーヤーを輩出する。  
地区トレ、県トレともに指導者の質が担保され、全地区・カテゴリーで一貫指導体制を確立すること。また、熊本県としての方向性を全員が共有認識できるようにする。  
全体の認識を上げるために、全カテゴリーの選手・保護者含めて合同説明会・ミーティングを実施する。
- 暴力・暴言のない安全安心な競技環境を整備するため、指導者・保護者への啓発活動や研修を実施するとともに、大会要項等にリスペクトの考え方を明示し、健全育成を推進する。  
クラブウェルフェアオフィサー配置の義務化を進め、養成研修会を年間 1 回は行う。
- シニアリーグは各カテゴリーを通年開催とし、年間を通して余裕のある試合間隔で実施する。

## 【第3分野】人材開発と組織力強化

### 方向性・重点方針

協会運営を支える多様な人材を計画的に育成するとともに、業務執行委員会を中心とした組織運営・連携体制の強化を図る。

持続可能な協会運営基盤を確立する。特に、女性や若手の参画を広げ、組織に多様性と継続性をもたらす。

### 具体的取組み内容

- 各委員が意見を言いやすい環境づくりに配慮し、よりよい委員会運営を目指す。役割の固定化を防ぎ、新しい人材（外部からの採用、または若手・異能の抜擢）も積極的に受け入れる。

## 【第4分野】登録・参加促進（生涯スポーツ・女子・シニア）

### 方向性・重点方針

人口減少期においても「生涯を通じてサッカーを楽しむ社会」を形成。

女子・シニアを重点ターゲットに、参加層の拡大と継続率向上を図る。

### 具体的取組み内容

- 普及プロジェクト、キッズ委員会、地域協会および4種委員と連携し、普及事業へ参画し、登録者数維持に努める。  
女子委員会と大会日程の事前調整を図り、活動機会が制限されないよう配慮する。  
各チーム指導者と連携し、熊本なでしこプロジェクトの活用を推奨する。
- 年間を通じた活動により、シニア世代の選手寿命の延長を図るとともに、シニアサッカーファミリーの交流をより長く継続できる環境づくりを整備する。
- 高校サッカーOB大会の開催。

## 【第5分野】ガバナンス・財務基盤

### 方向性・重点方針

透明性と多様な財源確保を基軸に、協会経営の安定化を図る。

ガバナンス・会計・財務・コンプライアンスの質を高め、協会の公共性を確立する。

### 具体的取組み内容

- KFAの協賛獲得力を強化し、自主財源拡大を図る。  
☞マーケティング人材は、協賛の仕組みをつくり、委員会の営業力を育て、若い世代を巻き込み、協会の未来の収益と人材基盤を支える存在とする。
- 旅費規程の統一及び支払い方法（振込）への移行  
☞現金支払いを極力減らし、支払い記録の明確化、会計処理の透明性向上、事務負担の軽減を図るもの。